



環境白書の刊行にあたって

広島県知事 藤田 雄山

広島県では、昨年3月、本県が目指そうとする将来像や、今後、取り組むべき施策などを明らかにした広島県総合計画「元気挑戦プラン」を策定しました。

この総合計画では、県の基本政策の一つとして“暮らしの「安心」づくり”を掲げて、地球・地域環境の保全や循環型社会の構築、健康危機管理体制の確保などに取り組むこととしています。こうした取組の一環として、本年度は、県や市町の廃棄物対策の基本となる第2次廃棄物処理計画を策定し、市町と連携した地域環境行政の総合的な推進や、地球温暖化の防止などに取り組んで参ります。

環境問題は、決して「誰かが解決してくれる」ものではありません。気候変動に関する政府間パネル（IPCC）の第4次評価報告書の作業部会が明らかにしたように、地球の温暖化は、将来の問題ではなく、現在、私たちが直面する問題となっています。そのため、私たち自身が、家庭や学校、地域や職場で日々解決に取り組み、今日の社会システムを、二酸化炭素の排出の少ない低炭素型社会や、環境への負荷が少なく、資源やエネルギーを有効に使う循環型の社会システムに変えていかなければなりません。

環境白書は、本県におけるこうした環境の現状や諸課題、解決に向けた取組など、環境に関する資料を幅広く掲載しています。

本書を通じて、県民の皆様一人ひとりが、自らの行動と環境との関わりについて、認識を一層深めていただくとともに、様々な主体による環境保全活動の輪が広がっていくことを期待します。

平成19（2007）年9月